

卒業の頃の思い出

小澤泉夫

昭和 19 年 3 回生で徴兵延期の恩恵で研究室に居た。一時熊野の近くの陸軍燃料廠に動員され、新潟の黒川、秋田の八森油田で油田の弾性波探査をした。可成りの成果を挙げたけれど終戦で不明が多かったのは残念だった。動員された人より研究室にいた人の方が生活面でつらかったようだ。

昭和 20 年京都府の依頼で京都周辺の地震活動や耐震計画のために阿武山と上賀茂の主にウィヘルト地震計の記録の整理をした。助手の人が病気休職でその仕事が私に廻って来た。興味があっていろいろ考えながらやって大変勉強になった。その頃は学生さんも時々手伝いに来て呉れて張合いがあった。薄暗い地下室で一日中コンパレーターをのぞきこんでいたが、夏には教授もここは涼しいなあとのぞきに来た。

当時は電力事情が悪く大抵の人は蓄電池を充電に大学へ持って来たので私は充電係のようだった。然しある時一晩中充電して電池が駄目になって気の毒なことをした。その頃は夏から秋にかけては決ったように油田の弾性波探査に行った。

昭和 20 年秋からは旧逢坂山トンネルで地殻変動の観測を始めた。今も暇だから定年後も続けていればよかったと思う。迷惑そうだったから止めた。

卒業して大学院特別研究生の時、3 ヶ月間ベルギーのルクセンブルグの王立研究所、イギリスのエジンバラ大学、アメリカのコロンビア大学に留学して歩いた。始めてベルギーへ行った時、水道の生水を飲んだら気分が悪くなり緑色のマリ藻のようなものを戻した。この地方の人は SPA 水のようなにがい飲料水を買って飲んでいて、これに角砂糖を入れて飲むと程よい味になった。ベルギーは大変窮屈な所で、イギリスは少々気楽でアメリカは更に気楽だった。帰りはハワイを廻って帰った。日本にいるような気分だった。ついでにミッドウェイにもよって来たらよかった。